

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700301		
法人名	社会福祉法人 あぐりす実の会		
事業所名	グループホーム大地の丘		
所在地	愛知県知多郡南知多町大字内海字奥鈴ヶ谷70-87		
自己評価作成日	令和7年1月9日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	2025/2/3		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく暮らせるグループホーム」を理念に掲げ、入居者一人一人の生活リズムや趣味・嗜好に合わせたケアを提供しています。 食事は外部の物を採用していますが、その方に合わせた食事を提供できるよう朝食は全て手作りの物を出しています。 また一年を通して運動会やミカン狩りなど、毎月その季節に合わせたイベントを企画し開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

支援計画を基に「24Hシート」を作成し、利用者其々の生活歴、生活パターンを支援に反映し、24時間個人のペースで生活が継続できるように努めている。家事はやれることを一緒に行う様支援し、習字や洋裁等の趣味の継続は利用者の意欲向上となり「その人らしく暮らす」理念を叶えている。 年間を通じて節分やひな祭り、季節毎の花見ドライブ、馴染み深い豊浜祭りの花火鑑賞、法人主催の夏祭りや秋祭り等多彩なイベントを提供し、利用者の楽しみや喜びに繋げている。 家族とはイベントの参加や食事を介した家族交流会を実施して、ホームの取り組みへの理解と協働関係を深めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催のユニット会議内で理念を唱和しており、理念をもとにサービスを検討している。	ホーム理念は玄関に掲示すると共に職員会議で唱和して意識付けしている。「その人らしさを大切に」を基に、利用者の生活歴、習慣、希望を重視し、決められた日課ではなく利用者の生活リズムで過ごせる様に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行から地域との交流が減っているが、今年度は一度みかん狩りに出かけられた。	ホーム周辺は民家がない地域性である為自治会がなく、地域密着としての活動は難しい状況だが、南知多伝統の豊浜祭りへの参加や、隣のミカン農園でのミカン狩り、地域の作品展へ利用者の作品を出展する等、地域との関わりを深め継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉敬老フェアに入居者の作品を展示している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヵ月に一回行い、サービス状況を報告し意見交換を行っている。	年6回定期開催している推進会議では参加者との活発な意見交換の場として活用されている。離設の困難事例では、玄関自動ドアの鍵の保管場所や扱いについてのアドバイスをもらい改善に繋げる事ができた。運営状況を周知し、サービス向上へ繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南知多町職員の福祉担当職員とは、運営推進会議の場と日頃のメールで連絡を取り合っている。	南知多役場には書類の提出や介護保険申請や変更等で直接出向く機会がある。窓口にはホームの担当者が決まっており何かあれば電話や直接相談できる関係性を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設防止の為、玄関に電子錠がかかっているが、入居者から希望があれば職員が付き添い一緒に外に出ている。また法人が主催の身体拘束廃止研修を職員が受けてユニット会議で伝達している。	身体拘束マニュアルを整備し、入所時の職員育成やホームの勉強会に役立てている。2か月毎に身体拘束適正委員を開催し、その内容はホーム会議で伝達し職員への意識付けをしている。スピーチロックに当たる行為が見られた際はその場で注意を促している。またベッド柵やセンサー等やむを得ない使用については職員間で検討すると共に家族の同意を得ている。使用中の観察により使用を無くす検討もしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等でお互いのケア方法を確認し合い、虐待が疑われる対応方法が無い確認している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットが事業所内にあり、職員が閲覧できる環境にある。また、研修を行ったこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時は説明を行い、その結果を文書で残すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情受付システム等、意見があれば反映できる環境がある。	家族の面会が多く、その都度生活の様子を伝え家族の安心に繋げるよう努めている。家族や利用者の要望は即支援に取り入れる様な迅速な対応に心がけている。利用者からの外出の要望があれば職員間で検討し業務の調整をして実施する事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議にて意見を聞き反映している。	管理者は年2回職員の個別面談を行い、意見や要望、悩みを聴く様に努めている。会議ではレクやイベント等の意見交換が活発に行われ、業務に反映させている。職員が業務を率先して楽しむ事で利用者の活性に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、個人面談を行い、職員一人一人に対して対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で研修を行い適宜参加している。個別で支援方法も指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議に参加した際に同業者との交流ができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者前アセスメントに基づき、不安や困りごと、要望など随時聞き取りをし関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りで聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取りにより対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人にやりたいことを聞きながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と密に連絡を取り合い、入居者の対応に困った時はご家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に出かけたり、友人が来られて一緒に工作をしたり、関係が途切れないように支援している。	面会には親族や知人友人が訪ね、ゆっくり過ごせる様に努めている。電話の取次ぎ、手紙や年賀状のやり取りも支援し、馴染みの付き合いが継続できるよう支援している。利用者個人の趣味(習字、洋裁、生け花等)が継続できる様に支援し生きがいに繋げている。美容院等の行きつけの場所には家族と協力して出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士で食卓を囲めるよう席に配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた入居者の情報を得たり、また必要に応じて次の事業所にも情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や生活リズム等を記載した「24Hシート」を作成し、職員同士で情報を共有しケアに活かしている。	入居者の要望、意向を日々の関わり、表情などからくみ取り、独自の「24Hシート」で意向・好み、自分で出来ること、サポートが必要なことに分けて記録し、把握に努めている。また面会時には家族からも話を聞き、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	24Hシートに記載した情報や普段の様子からサービスを決めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やユニット会議で意見を出し合い、介護計画に反映している。	担当者会議の前に本人の意向を確認し、担当者会議で家族の意見を聞きながらケアプランを作成している。年1回の見直しを基本に、状況が変わったときに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果をパソコン入力し職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームから併設のデイサービスに行くことは可能だが実施したことはない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が減少し地域とのかかわりまで支援できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医にそのまま受診できるよう支援している。また受診時は必要な情報を家族に文書でお渡ししている。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医に家族同伴で受診している。夜間など緊急の場合は家族と連絡を取り、対応を話し合いながら協力医療機関である知多厚生病院をお願いしている。救急マニュアルがあり、職員に浸透している。また歯科は月に1回歯科衛生士の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師に相談して適切な看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院については会議や電話等で入居者の情報を双方で交換し、円滑に入退院を進めることができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に重度化した場合の対応を説明しており、また併設の特養移行時も情報を提供できている。	入居時に重度化した場合の対応を説明している他、食事が摂れない、お風呂に入る事が出来ないなどの身体機能の悪化があった場合、職員間で相談し、家族の意向を聞きながら、併設の特養などにスムーズに移行出来るよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人主催の一次救命の研修を受けている。また緊急時のマニュアルがいつでも閲覧可能な場所に置いてあり、すぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域との協力体制はとれていない。	今年度は2回実施している。5月に夜間想定避難訓練を実施し、同時に初期消火訓練を家族も参加し実施している。10月には昼間の訓練で消防士立ち合いのもと実施している。	地域と連携を図り、相互に協働関係を深められる取り組みを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を重視した支援を心掛けてい るが、耳が遠い方のトイレ誘導の際に大き い声が出てしまう。	一人ひとりの尊厳を重視し、特に言葉遣いに気を付けて いる。職員間で気づいた時に注意し合うほか、他者 評価をすることでそれぞれが考える機会を作っている。 入居者の羞恥心にも配慮し、入浴やトイレの見守りも一 人ひとりに合わせて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し たり、自己決定できるように働きかけてい る	本人様の起きたい時間、食べたい時間等を 把握するとともに、その都度声掛けによっ て自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	本人様のペースを優先して支援にあたっ ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している	日頃から本人様に服を選んでもらったり、 二ヵ月に一度は理美容で髪をカットして身だ しなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員と一緒に準備や食事、片付けをしてい る	入居者一人一人の好みや食事の量を把握 して提供している。また朝食はすべて職員 の手作りの物を提供している。	入居者の嗜好に合わせ調理や味付けを変えたり、代替 品を用意するなど柔軟に対応している。食事の準備や 片付けなど、入居者の出来る事を一緒に行っている。 季節を感じる食事作りや庭の畑で収穫した物でおやつ 作りをするなど工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食べられる量を把握して 盛り付けている。摂取量を記録に残し、摂取 量が少なくなった時などはご家族に相談し 対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力 に応じた口腔ケアをしている	朝、昼は口腔ケアを行っていない方が多 い。月に一度、併設のデイサービス職員		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人に合わせた排泄時間を把握し個別に誘導している。日中はトイレで排泄してもらい、夜間も2名を除いてトイレで排泄をしていただいている。	入居者それぞれのタイミングに合わせて誘導し、全員がトイレでの排泄が出来るよう支援している。また夜間は起きたくない方を除き、トイレに誘導し排泄できる様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は毎朝牛乳を飲んでいただいたり、飲み物にオリゴ糖を混ぜたりして自然に出るように促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者ごとに入りたい時間帯を把握し、かつその日によって入りたい時間帯が違った場合は柔軟に対応している。また夜間帯の入浴支援も実施している。	2日に1回を基本に、入居者の要望に合わせ昼間、夜間も対応している。入浴剤を使い温泉気分を味わってもらったり、菖蒲湯、ゆず湯など季節の行事も取り入れて楽しんでもらう工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での温度、明るさ等、本人の希望により調節し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が内服薬をセットし、服薬の情報をファイルしており全職員が情報を閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の趣味や嗜好を把握し、生け花や刺し子をしていただいている。また毎日、ラジオ体操と般若心経を希望者で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ制限は無くなったものの、職員減少により外出の希望に沿えなくなっている。	ホームが高い場所にあり坂が多く、周りに民家も無いため徒歩での日常的な外出は難しいが、庭に出たり併設の特養まで散歩したりしている。ドライブで初詣や花見(桜やひまわり)、豊浜祭りの花火にも出かけて季節を感じられるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会が減少しているため、お金を持って使う事が無くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の希望があった場合、ご家族に職員が電話をかけて電話をかわっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白色のトイレの手すりが見やすいように、壁に紺色の壁紙を張って掴みやすいようにしている。またグループホームの玄関に季節に応じた花等の飾りつけを行い季節を感じていただけるように工夫している。	入居者が長い時間過ごすリビングは明るく広々とした空間で、季節の飾りや花が飾られている。ソファ以外に長椅子に座布団を置き、共用空間で寛ぐ工夫がされている。キッチンアイランドキッチンで入居者と職員と一緒に作業しやすいように作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は入居者ごとの好みで設え、リビングでも仲の良い方同士の席を近くにして気持ちよく過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器を持ち込んでもらい、自宅での暮らしに近い雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。入居の際にご家族にも説明し協力を得ている。	洗面台、カーテン、エアコン以外は全て入居者が使っていた物を持ち込んでいる。家族の協力でレイアウトし、入居者それぞれが居心地が良いように配慮している。表札を入居者と職員で手作りし、個性が出るよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はやっていただき、難しいことは簡単にできることに替えてできるだけ行っていくべく支援をしている。		